

古道里山と天神社

先史古代研究会 丸谷憲二

1 はじめに

古道里(こどり)地名から古代の古道が見えてくる。安仁神社遥拝所の関連調査として、古道里地名を調査した。重要なのは江戸時代の地誌に古道里の記録が無いことである。古道里のルビに、(こどり)と(こどうり)がある。

2 古道里の従來說

古道里の地名の由来については2説ある。『岡山の地名』説と野崎豊説である。



2.1 『岡山の地名』説 古代条里制

東片岡村に「村内に古道里という地名があるが、弘法寺文書の天文七年(1538)の『納弘法新開田畠取帳之事』に古道理(こどうり)とあるのは古道里のことで、古代の条里制の名残りであろう」とある。

2.2 野崎豊説 古代の鳥飼部

「こどり」とは、古代の鳥飼部(とりかいべ)である。大化前代、鳥の飼育を職として朝廷に仕えていた品部。鳥取部(とりとりべ・ととりべ)である。

吉備国の鳥取部は、桃太郎伝説の家来の雉として知られる。温羅征伐を命ぜられた吉備津彦命は、吉備の中山に陣を構え、家来として犬飼部犬飼健命(いぬかいべのいぬかいたけるのみこと)と、猿飼部楽々森彦命(さるかいべのささきもりひこ)、鳥飼部留玉臣(とりかいべのとめたまおみ)

の三名を従えた。

3 考察

3.1 天神社の16菊紋

天神社の16菊紋に注目した。安仁神社の遥拝所で16菊紋が付いているのは安仁神社と天神社のみである。天神社は古道里の氏神であり、皇室との関係と考察したい。



3.2 邑久郡の地名調査 古道里山

『邑久郡誌 第一編』に、「邑久郡の地名」が収録されている。朝日村東片岡に、「古道里東浦、古道里山、古道里前、古道里」とあり、古道里は山の名前である。

4 まとめ

古道里は山の名前であり古代条里制は関係しない。また、『備陽記』（1721年成立）の藤井村枝丸山に「家数六十六軒」とある。国郡里制（こくぐんり）では五十戸が一里である。古道里山の考察が必要である。

野崎豊氏の古代の鳥飼部説が正しい。天神社の16菊紋が皇室との関係を証明している。江戸時代の地誌に古道里の記録が無い。これが、皇室との関係の証明と考える。

『吉備温故秘録』の赤坂群（あかさかのこおり）に「鳥取荘」が見える。「鳥取荘」も鳥飼部縁の地名である。南北朝時代に鳥取荘が置かれ長講堂領（後白河院の院御所である六条殿（ろくじょうどの）内に建立された持仏堂を起源とする法華長講弥陀三昧堂（ほっけちょうこうみださんまいどう）の略称。）と説明される。鳥取県の由来は、平安時代の『和名類聚抄』に「因幡国邑美群鳥取郷」とあり、「鳥取郷」は、古代、白鳥を捕らえて朝廷に献上する「鳥取部」に由来する。

5 参考文献

- ① 『岡山の地名』平成元年 岡山市地名研究会 岡山市
- ② 『邑久郡誌 第一編』昭和48年 名著出版
- ③ 『備陽記』石丸定良編 1965 日本文教出版 原本：享保6年（1721）8月自序
- ④ 『吉備温故秘録』大沢惟貞編 「吉備群書集成第6輯」1970 吉備群書集成刊行会
- ⑤ 『邑久郡史 上巻』昭和28年 邑久郡史刊行会